古代・中世の神埼
～神埼郡の成立と律令社会

講演者　佐賀大学経済学部教授　宮島　敬一　氏

今に生きる律令制

古代国家は律令制国家として7世紀に出来上がっています。律令の「律」は刑法、「令」は行政法を意味しますが、その「令」としての中央集権、官僚制、天皇制は古代に始まり、現代社会につながっています。

律令制の核である官僚制は位階によって官職が決まる官位相当性が原理になっています。位階は天皇に対して官僚が並ぶ順番。正一、正二、正三位という形で並んでいきます。江戸や明治時代はもちろん、現代でも律令は生きています。

古代は公地公民制という形で成立します。

公権力介入できない荘園

国が全部土地を持つということになれば、土地を耕してくれる人に班田、つまり口分田を誰に配るかを考えたとき、土地に名称をつけるため条里制を敷き、人を特定するため戸籍の必要性が出てきます。公民から税金を納入させるため税帳を作り、最終的には国に税が集中するシステムを作り上げるということになるわけです。

しかし、徐々に公民・百姓の税逃れや逃亡が広がり、公地公民制は9世紀には破綻します。代わって土地に税を課すやり方が登場します。大きな勅使田や公営田・官田の中で民を農作業に従事させ、税を取り立てるという形態。しかし、これもうまくいかず、10世紀には地域の顔役（名主）に土地と税金取り立てを任せるやり方に替わります。10世紀の変革と呼ばれ、これが古代から中世への一番大きな変化です。

中世になると、名主たちが土地の所有権を求めて動きます。時の権力者に年貢を渡す代わりに、所有権に対する公権力の介入を止めさせるとともに、税金も免除してもらうようになります。こうして税も払わない、国家権力も介入できない荘園が成立するわけです。半ば公的な「職」の体系が作りだした本格荘園の誕生です。

その所有者は「権門」として、最終的な土地の所有者になります。権門同士が競い合って中世社会の権力闘争が起こり、荘園の分捕り合戦や発言力の大きさを競う事件につながっていきます。

あなたもふるさと学芸員
「神埼塾」の講演から④

「皇室領荘園　神埼荘」
～平氏・日宋貿易・蒙古襲来と神埼荘

荒堅目遺跡から出土した木簡
「蔵吉　人」の文字が書かれており、
蔵戸津に着いた荷もしくは人の内容を記したとみられる。

かんざきのしょう
3千町歩の神埼荘
日宋貿易の重要拠点

蔵戸津の役所跡・荒堅目遺跡の発掘現場
蔵戸津は古代・中世の有明海沿岸海上交通の要衝で、日宋貿易の船も発着したといわれる。

たくさんの豪族が私有地や私有民を持ち、力関係によって、肥前をはじめ66カ国が形成されていました。豪族たちが国の線引きをし、その線引きは現代でも行政区域として生きています。豪族たちの力関係から天皇が台頭し、豪族たちの私有地や私有民を公地公民化、つまり天皇のものにする代わりに豪族を官僚として起用します。これが律令国家です。天皇制ができたということは官僚制、中央集権制度ができたということです。

貿易船は神埼荘のどこに

全国の荘園経営が失敗する中で、神埼荘は残っただけでなく、なぜ3千町歩という大きな荘園になったのでしょう。これだけの規模のものは全国でもそうありません。政治的な問題が起こると神埼荘の名前が出てくるのも特徴です。

公卿の書いた「長秋記」という日記に、二三三年の神埼荘と日宋貿易、平氏との関係を物語る事件の記述があります。宋船と宋人が神埼荘に着いた、ここは神埼荘なので、大宰府の役人が来て尋問するのは間違いだとされたと記述しています。つまり、神埼荘は当時既に大宰府の役人が介入できない荘園になっていたことを知ることができます。

では、神埼荘のどこに宋船は着いたのでしょう。大まかに2つの説があります。ひとつは当時海岸線だったと思われる蒲田津（佐賀市蓮池町）や海上交通の要衝だった蔵戸津（神埼町）か、下中杖（吉野ヶ里町）です。大体海抜5メートルラインで、当時は海岸線にすごく近い所です。筑後川を通してか、海から直接かはわかりませんが、宋船が着いた神埼荘の候補地です。もうひとつの候補地は博多です。

では、神埼荘の年貢などはどうやって京都に運んだのでしょうか。当時、博多に神埼荘の倉敷があったといわれますので、まずは博多までのルートです。坂本峠を越えて那珂川あたりを通るルート。もうひとつ、蔵戸津から筑後川を遡って久留米から宝満川を上る説がありますが、本当はどうなのか分かりません。

神埼荘の開発には櫛田神社を中心とする白角折（おしとり）神社と高志（たかし）神社の、神埼荘３所大明神が大きな位置を占めたといわれる。

密接な神埼荘と博多

博多と神埼にもうひとつ関係があるのは櫛田神社です。博多の櫛田神社は神埼の櫛田神社の末社です。末社があるというのは博多と神埼は同じ神社、末社でつながっているということを表しています。

山の向こうにある神埼荘の3千町歩は大宰府の役人にとって魅力的な場所でした。役得もあったでしょう。だから、政治的な動きがあるとすぐに、神埼荘は誰のものか、神埼荘の行方をどうするか、という問題になるのです。

神埼荘と密接な平氏の基盤は荘園と知行国と官職、そして日宋貿易です。貿易が最も巨額な利益をもたらしました。先の日記のように皇室の威光を利用して院宣と号して公権力の介入を排し、貿易の利権を独占しようとしたのです。

神埼荘が成立した八三六年には未耕作の空閑地690町歩でした。それが13世紀後半の鎌倉時代には3千町歩になり、院も手放さない重要な荘園になっていきます。

源平合戦で平氏が敗れたのに伴い、平氏が持っていた荘園は幕府に没収されますが、神埼荘は没収されず、院が持ち続けていました。一時、神埼荘は幕府のものになり、地頭が置かれますが地頭没落後、足立氏や北条氏が神埼荘を統括していました。

文化的要素も持つ荘園

一二八一年の蒙古襲来の恩賞地として神埼荘の配分が注目されますが、神埼荘が配分されたのは文永・弘安の役終了8年後の一二八九年です。それも400人に恩賞地として5町、10町歩単位で利権が与えられただけで、朝廷出身の親王将軍のもとで、院領荘園として持ちこたえていました。

当時、北条氏一族が肥前守護職として神埼荘との関係を強めていたことも影響しているでしょう。北条氏がつぶれた後、神埼荘がどうなったかは分かりません。

鎌倉幕府終わりの3人の将軍は親王将軍です。この3人の供養塔が東妙寺（吉野ヶ里町）の五輪塔と言われています。塔を造った石工たちは北条氏の神埼荘所領を確保するため、院から使わされたといわれています。東妙寺の境内絵図は国の重要文化財に指定されています。

神埼荘は政治的に重要な局面を迎えるたびに、その時々に、政権を持っている人間がかかわってくる、そういう荘園です。3千町歩という豊かな荘園は地元の豪族や民衆が開発した土地です。東妙寺や櫛田神社のように文化的な要素もたくさんあります。それがこの神埼荘です。

◎問い合わせ先
神埼市役所　市長公室
☎37-0102